

泡瀬干潟

第5回 東部海浜開発事業検討会議 現地視察 ふりかえり

藤田喜久

第6回 東部海浜開発事業検討会議 資料 (2007.4.14)

干潟とは？ - 干潟の定義

- 遠浅の海岸で、潮が引いて現れた所。（広辞苑より）
- 「潟」とは海岸や河口近くにとり残された湿地のこと。潮が引くと干上がる「潟」を「干潟」と呼ぶ。（干潟の自然より）
- 干潮時に露出する砂泥質の平坦な地形。（干潟の生物観察ハンドブックより）
- 潮汐の干満周期により露出と水没のサイクルを繰り返す平坦な砂泥質の地帯。（干潟環境の破壊と修復および生物群集の動態より）
- 干潟を地形的に区分すると「潮間帯」にあたる部分を指す。潮間帯とは、潮の干満によって干出・冠水を繰り返す地域のこと。潮間帯は、底質により、岩礁・転石・干潟に分類できる。（有明海・八代海の生物多様性と漁業より）
- 第4回自然環境保全基礎調査(1994年)では、以下の条件すべてを満たすものを干潟としている：
 - 1) 高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上あること；
 - 2) 大潮の連続した干出域の面積が1ha以上であること；
 - 3) 移動しやすい底質（礫、砂、砂泥、泥）であること。

干潟とは？ - 干潟の定義

- 干潟とは、一般的には「干潮時に広く出現する砂泥質の平坦面」で、面積や底質の性状で区分した明確な定義はない。

(干潟生態系に関する環境影響評価の今後のあり方より)

- 干潟の定義について厳密なものはない。

(海の自然再生ハンドブック 第2巻 干潟編より)

干潟の定義 - 最近の考え方

● 「干潟生態系」という考え方に基づく「干潟」

干潟に生息する生物や生物生産、干潟の物質循環などは、「干潟」だけではなく、隣接する陸域や海域と一体となって成立している。干潟生態系における「干潟」とは、干潟と干潟周辺域を含む範囲を指す。（干潟生態系に関する環境影響評価の今後のあり方より）

● 「湿地(wetland)」という考え方に基づく「干潟」

ラムサール条約では、「海岸沿岸域湿地」のひとつのタイプとして「干潟」が挙げられている。この条約の湿地の定義によれば、低潮時の水深6mまでの海域も湿地とみなされる。

泡瀬干潟とは？

干潟の分類

- * **河口干潟**：河川の河口部に、河川の運んだ砂泥が堆積して形成された干潟。
- * **前浜干潟**：河川などによって運ばれてきた砂泥が海に面して前浜部に堆積して形成された干潟。
- * **入江干潟**：入江奥部の河口部に形成される干潟。
- * **潟湖干潟**：浅海の一部が砂州や砂丘などによって外海から隔てられた浅い汽水域の区域に形成された干潟。
- * **人工干潟**：人工的に砂泥を投入して造成された干潟。

泡瀬干潟

泡瀬干潟の分類

- 前浜干潟（サンゴ礁干潟と分類されることもある）
→河川などによって運ばれた砂泥が海に面して前浜部に堆積して形成された干潟

泡瀬干潟

泡瀬干潟の範囲・面積

- 干潟の面積は、大潮時に干出する区域の面積としています。
- 干潟域の範囲は、地形条件と生物の分布を考慮し、C. D. L. (中城湾港工事用基準面) +0.2~+2.2mとして扱っている。
- 「146ha (泡瀬・泡瀬南の合計)」
(第4回自然環境保全基礎調査 第1巻干潟より)
- 「290ha」 くらい (泡瀬干潟シンポジウム報告書より)
- 「265ha」 (泡瀬干潟シンポジウム報告書より)

泡瀬干潟

泡瀬干潟の範囲・面積

- 「146ha（泡瀬・泡瀬南の合計）」
（第4回自然環境保全基礎調査 第1巻干潟より）
- 「290ha」 くらい（泡瀬干潟シンポジウム報告書より）
- 「265ha」 （泡瀬干潟シンポジウム報告書より）

参考

- 全国の干潟 51,443ha
- 沖縄島 1,216ha（マングローブ含む）
（いずれも第4回自然環境保全基礎調査 第1巻干潟より）

干潟の価値

干潟の価値は、面積で一律に決まるものではなく、生息する生物種や生物の生活史において重要な役割を果たしているか否か、機能や成因などで判断する必要がある。
(干潟生態系に関する環境影響評価の今後のあり方より)